

令和5年度 向粟崎小学校評価報告書

(自校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる
③あまりあてはまらない

②あてはまる
④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の向上	自ら考え、学び合う児童の育成	思いや考えを伝えようとする気持ちを持ちながら、根拠を明らかにして自分の考えを説明したり、自分の考えと友達のを比べたりしながらかかわり合っ学ぶ姿が求められる。	主体的に取り組むことができるような課題の設定を工夫している。〔努力目標〕	教職員アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	学習A 100%	29.4%	○教材研究の際に、児童が主体的に取り組むことができるような課題の設定の工夫を意識的に行うことができた。また、学年会シートに記録し振り返ることができた。 ○児童に考えをもたせる場面やかかわらせる場面でICTを積極的に活用できた。1人1台端末で他者参照したり、考えを共有したりすることができた。 ◆考えを共有することはできているが、それをもとに授業を練り上げ、学習を深めることにはまだ課題が見られる。 ◆学習用語は定着してきたものの、問いの意図を正しく理解し、説明に必要な用語や内容を用いてまとめる力はまだ十分とは言えない。 ・かかわり合う場面で、児童の発言を明確にしたり他の児童に広めたりする働きかけを共通実践として継続して行う。 ・板書等がキーワードを見つけ、児童自らが課題に対して正対したまどめを書くことができるよう、日々の授業で指導を継続するとともに、再思考する場を設ける。
			学習用語やキーワード等を用いて、課題に正対したまどめを書かせる指導を行っている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	学習A 94.1%	58.8%	
			課題に対して考えをもたせるための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	学習A 100%	41.2%	
			児童をかかわらせるための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が70%未満	学習A 94.1%	52.9%	
			授業を通して、できることが増えたり、考えがより深くなったりした。	児童アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	学習A 92.2%	56.1%	
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気があるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	生徒指導A 93.3%	27.0%	○教員は年間を通して、児童が互いを認め合える取組を意識して行った。友達への褒め言葉を認めることができたと感じている児童の割合が8割以上を維持できた。 ◆学校全体での取組は年間2回の実施であり、各クラスで行える取組を共通実践として行っていくことができなかった。 ・児童の実態や発達段階に応じた、クラスや学年毎で行える取組を提案し、実施していく。保護者には、家に持ち帰ってのアンケート時に子供と向き合い、自分や友達とのよさについて親子で話し合う時間を設けてもらえるようお知らせ等で働きかけていく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達とのよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果目標〕	保護者アンケート	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	生徒指導B 81.8%	18.2%	
			友達のよいところや頑張りを認めている。〔成果目標〕	児童アンケート	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	生徒指導A 85.1%	35.3%	
			友達から認められている。〔成果目標〕	児童アンケート	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	生徒指導B 75.7%	30.3%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはまだできない児童も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 100%	31.3%	
子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている。〔成果目標〕	保護者アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	生徒指導・特別活動B 83.8%	27.6%				
先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる。〔成果目標〕	児童アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 86.3%	54.5%				
健康と安全な教育・安心で健やか	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通じた基本的な生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きの基本的な生活習慣の定着により、目標の時刻までに寝ることができる児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康（生活プランニング）や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力目標〕	教職員アンケート	A：①+②が90%以上 B：①+②が80%以上 C：①+②が70%以上 D：①+②が70%未満	保健安全A 100%	41.0%	○生活プランニング実施期間中は、子どもたちも保護者も意識して取り組んでいた。 ◆実施期間が終わると、守れない児童がいる。 ・取組の期間だけでなく、定期的に声かけをして意識付けしていく。 ・寝る時刻というのは布団に入った時刻のことだということを確認する。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果目標〕	保護者アンケート	A：①+②が95%以上 B：①+②が85%以上 C：①+②が75%以上 D：①+②が75%未満	保健安全 73.3%	25.9%	
			学年の目標の時間に寝ている。〔成果目標〕	児童アンケート	A：①+②が95%以上 B：①+②が85%以上 C：①+②が75%以上 D：①+②が75%未満	保健安全D 69.0%	36.1%	
連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていくとともに、学校の取組や児童の様子を積極的に発信していく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果目標〕 ①：3回以上 ②：2回 ③：1回 ④：0回	教職員アンケート	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	教務A 83.3%	各学年平均3回	○各学年で計画的に地域人材を活用した授業づくりをすることができた。また、その成果として、児童にとっても大変有意義な学習ができた。 ◆恒例行事としてG.Tを招いていることがほとんどで、活動のねらいに合わせたよりよい教育活動の検討が十分になされていない。 ・カリキュラム編成時に活動の見直しを行う。
働き方改革	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を目処に業務を終了した。〔成果目標〕 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	教頭B 78.9%	52.6%	○昨年度同時期と比較し、大きく改善できている。教職員の半数以上が①と回答しており、定時退庁日の意識が大きく向上した。 ○全教職員が集まって行う会議の時間を短くする工夫や、取組の精選、会議資料や配布物のデータ化を少しずつ推進することで、時間外勤務時間を減らすことができた。 ◆時間外勤務時間が多い職員が依然として固定化している。 ・SSSや支援員の勤務時間の工夫や業務整理、調整をすることで、さらなる有効活用を図る。
学校評議員による意見			<ul style="list-style-type: none"> どのクラスも活発に活動していた。先生も子供たちの活動と一緒に入り込んで、共に考えているという雰囲気があった。 わかりやすい授業づくりをしているのが感じられた。 電子黒板、クロムブックをよく活用している。子供たちもよく操作をしていて、使い慣れている様子が感じられた。 いろいろな職業の中心になれるような人材に育ててほしい。夢をもたせて、それに向かって頑張ってもらいたい。 「今日は何かあった。」と学校であったことをよく話してくれる。子供たちが元気に活動しているのがなによりよい。 1年生もずいぶん落ち着いて学習に取り組んでいる。よい雰囲気ができている。 学校保健委員会で姿勢の話聞き、よかったですと感じた。睡眠時間についても、外部の講師を招いて話を聴く場を設定するなど、取組ができたらよいと思った。 地震の際に感じたことだが、もし平日などに災害が起こって、子供の安否を確認したり家に遊びに来た子の保護者に連絡したりする際、連絡の手段がない。もう少しつながりがあったもよいのではと感じた。 ホームページでの情報発信が定着してきたおかげで、学校の様子がよくわかるようになってきた。テロルも、情報をすぐに確認できてたいへん有効である。 大地震により、内灘町も大変な被害に遭ったこと、学校が避難所となったことなどにより、先生方も大変ご苦労をされている。先生が元気であることが子供にとっても大事なことであり、無理をしないで、これらも向粟崎小学校の子供たちのためにがんばってほしい。 					